

奄美本土復帰記念カバーについて

沖縄本土復帰に関しては10周年毎に記念切手が発行されているのに対して、奄美群島本土復帰に関しては小型印が作られている位でもっと関心があっても良かったのではないと思う。

下図は当時東京にあった「琉球切手研究会」が作成したものと思われる数少ない日本復帰記念カバーで1円切手10枚貼付で特印と櫛型印が3印づつ押印されて良いカバーとなっている。10円1枚貼りで少し物足りなかったであろう。

「切手研究会」のメンバーで故青木四海雄さんは当時海上保安庁勤務で奄美復帰の時海上保安庁の船に乗船し銀券や切手等その他日本政府の諸々の物を奄美へ運送したと話されていたので、「上陸後記念の押印はされましたか」と聞いたところ「記念切手でも出ているやったらかもしれないが現金等を多量運送していたのでそこまでは気が回らなかった」とおっしゃっていた事を思い出す。この特印は東京中央でも使用されていたので昭和29年の年賀状に東京特印を使用された郵趣家の年賀状を見た事がある。なおこの特印の紫印は名瀬局はどういうわけか琉球郵政時代より特印は紫印で、この時もこの色を使用したのが郵政省の職員の指摘で初日の午後よりだいたい色に変更になったという。このカバーは午前中の黒活印があり、まさに午前に押印した特徴である。

秋吉 誠二郎

